

# 豊南小学校・校長室だより

平成 29 年(2017 年)6 月 7 日  
発行者 西山 博章

児童数配布

第 13 号  
(通算 99 号)

## 日曜参観、学級懇談、PTA総会、ご参加ありがとうございました！

先日は、日曜参観に朝早くからお越しいただき有難うございました。始業式から2ヵ月ほどがたち、どのクラスも、それぞれのクラスカラーがでて、勉強や遊びに日々取り組んでいる姿の一端をご覧いただけたでしょうか？

「参観」ということで、たくさんの保護者の方々が見に来られていて子どもたちも普段とは少々勝手が違い多少、緊張ぎみのところもあったかもしれませんが、しかし、私が、駆け足でしたが、全てのクラスの授業の様子を見てまわったときは、どのクラスの子どもたちも普段と大差なく、緊張することなく、それぞれの授業を受けていたように思います。そんな中で、1年生が多目的教室で音楽の合同授業をやっていた光景が印象的でした。事前にお配りした「参観授業一覧」には『きれいにうたおう』と書いてありました。音楽で大切なことは、「きれいに」歌うことはもちろんですが、まずは、歌う本人が「楽しみながら」「音を楽しんで」「歌うことを楽しんで」歌うことが大切です。

中学校では、クラス対抗で「合唱大会」を実施する学校が多いのですが、大抵は学年共通の課題曲と、クラスで選んだ自由曲の2曲をクラス全員の合唱で歌い、指揮者とピアノ伴奏者もクラスの中から募って、クラス全員が一丸となって歌い上げ、審査員(先生たち)によって審査された得点を競うものです。私も中学校で担任をしていたときは、この合唱大会が近づくたびにクラスの子どもたち以上に「よっしゃ！今年も優勝が目標だ！」などと口走りながら単純に興奮していた担任であったことを思い出します。



そしてコンクール当日までの練習は、音楽の時間で音楽の先生が指導することはもちろん、毎日の朝の会や終わりの会などの時間を使って、各クラスの担任の先生が指導する日々が続きます。もちろん、担任の先生は「音楽」の専門家ではありません。しかし、この「合唱コンクール」という大きな行事を使ってクラスをいかに盛り上げ、歌の得意な子、不得意な子も皆巻き込んで、歌い終わったあとの達成感と充実感、そして結果は何であれ何よりもクラス全員でひとつのことを成し遂げたという成功体験を味わうことが最大の目的でありました。

そのために、音楽的な、歌の技術的な指導は音楽の先生にお任せして、私はもっぱら、朝と放課後の時間を使って、いかに生徒たちの『心をくすぐり』、どんなに歌が不得手な生徒でも『歌わされている』のではなく、自分が『楽しんで』『クラスの一員として』『クラス全体の合唱の重要なひとりの歌声として』歌っている！という実感をいかにもたせるかということに腐心していました。時には自分の勝手な解釈(?)で、歌に強弱をつけたりと、まるで自分が舞台監督にでもなったような気分で合唱コンクールが終わるその日まで気分が高揚していたのでした。

結果はそのときどきで違うのですが、コンクールの当日の生徒たちの「歌う」姿を見ていて、やはり、こうした指導は間違っていなかったと強く感じていました。中学生にもなると変声期に入り、いくら歌が好きでも自分が思ったように声がでない生徒もいるのですが、それでも彼らは自分なりに「歌うことを楽しんで」「きれいに」歌っていたのです。それがクラス全員の気持ちとなって歌い終わったとき、その結果として「優勝」することもありました。

ずいぶん昔のことを思い出しましたが、先日の参観授業で1年生の音楽の合同授業を見せてもらって、子どもたちが本当に「歌を楽しみながら」「音を楽しんで」歌っていることを実感できたのでした。(もちろん、指導する先生の技術も半端なものではないことは言うまでもありません。)参観ではありませんが、2年生の音楽の授業を見せてもらったときも、教室で子どもたちが担任の先生のオルガンの伴奏にあわせて、力一杯元気な歌声を聞かせてくれました。しかも、一時間の授業の中で何曲も何曲も、次々と本当に楽しそうに歌う姿は何かしら感動を覚えました。子どもたちが自分の心で感じたままを、本当に素直に「歌」を通して伝えてきていることが肌で感じられたからです。やはり、こういった経験を通して子どもたちは自分の「心」を育てていくのだとあらためて思いました。音楽だけでなく、例えば、絵本の読み聞かせなどもそうです。『本の世界』に入っていくことで自分が今まで決して経験したことのないような世界や考え方を擬似体験することができます。絵本の段階から一歩進んで、小説などを読む時期になったときもまた、次の段階の新しい体験、追体験が待っています。「ネバーエンディングストーリー」という小説をご存知でしょうか？「決して終わりのない物語」という意味のタイトルがついたこの小説は映画にもなったこともあり、ご存知の方もおられるかもしれません。この小説はまさに、子どもたちが「心(感性)」を育てていくことで、大きく成長するというのを私たちに教えてくれている物語です。もしよろしければ、本を読むのはちょっと時間が…とおっしゃる方はDVDがでていますので、是非一度ご覧になってください。大人心にも「ワクワク感」が伝わってきます。☆☆☆AAEのレイ君は昨日も登校しました。ヨ…

子どもたちは、ちゃんと校長室の廊下側の扉横の看板を見ていて、20分休憩と昼休みにはみどりんぱーくに来てくれました。前回とはまた違ったメンバーも入っていました。(また、レイ君のことも書きますので楽しみに)

To be continued (次号に続きます)